

## 第1回地域への人の誘致・移動の促進に関する研究会 議事概要

1. 日時： 平成18年9月7日（木）10:00~12:00
2. 場所： 合同庁舎3号館11階特別会議室
3. 出席委員（敬称略）  
奥野委員長、大久保、佐藤、残間、清水、高橋、玉田、秋田、西山、鈴木、竹中、田中（山中委員代理）、小村（河原委員代理）、中川（釜瀬委員代理）、館、末宗、菅野、坂本、重田、梶田、依田、中山委員、佐藤（大矢委員代理）
4. 議事（概要）
  - （1）開会
  - （2）辻原審議官挨拶
  - （3）委員紹介
  - （4）議題
    - ①国土形成計画の検討状況について（本研究会の背景）
    - ②研究会の論点及び今後の進め方について
    - ③その他
5. 主な発言内容
  - ・ バブルの頃に東海地区での就職を東京で求人したところ成功した。このようなニーズはかなりある。
  - ・ UJIターンの動きは、東京の地価が下がってから鎮静化した。マッチングをしても、あとでうまくいなくなるケースもある。
  - ・ 2007年を前に大きな動きになるかと思っていたが、まだ動きは活発ではない。これから4-5年かけて動いていこう。
  - ・ 二地域居住は1つのライフスタイルだが、お金がかかるのでメインストリームとなるかは疑問。田舎は長く住んでこそ良さが分かるもの。
  - ・ マーケットの対象として団塊世代を狙う企業が増えてきた。行政も動き始めた。
  - ・ 団塊世代はまだ若いと思っているので、高齢者扱いしてはならない。
  - ・ 地域への移動を促進するためには、かっこよく見せることが重要。低廉な住宅、景色がよい、特産物が美味しい、病院が整備されているといったことではかっこよくないので動きがない。例えば「まちづくりプロデューサーとして求められている」など、友人に説明できることが重要。
  - ・ 団塊の世代や、その前後は世代ごとに特徴があるので、一緒にしてはならない。
  - ・ 1962年から67年に東北から都心部への集団就職があったが、この二百数十万人のこれからの動きに注目している。
  - ・ 田舎暮らしにあこがれる人は多いが実際に動く人は少ない。これをどう具現化し、国としてどうバックアップするかが重要。
  - ・ 欧米ではルーラル・ツーリズムやアメニティ・ムーバーというかたちで、都市と農村の交流や地域振興が行われているが、これらに関する資料が少ないので収集してはどうか
  - ・ 女性は地方への移住願望が小さく、その要因を分析してみてもどうか。
  - ・ 2004年に3大都市圏の5万人アンケートを実施したところ、地方から都心への移動に対する潜在的ニーズがあることが分かった。その希望者の移動をどう促進するかを具体的な形でまとめてほ

しい。

- ・ 地方側は、誰でもいいから来てほしいというのではなく、こういう人に来てほしいというメッセージを出すべき。
- ・ これまでのUJIターン事業について、何ができて、何ができなかったか、何故こうなったのかななどを調べてみてはどうか。
- ・ 都市住民の価値観は「豊かさ」から「より良く生きる」に変わっている。国民生活の構造改革が必要。
- ・ 兼業・兼居を薦める本を出しているが、自分も含めてやりたいと思っているのにやらない人が多い。発射台に載っているのに点火しない。なぜやらないのかを明らかにすることが必要。
- ・ 団塊の世代などが、田舎暮らしをしながら地域で活躍することにより、地域が活性化するというモデルを作っていきたい。
- ・ 地域における活躍の場の掘り起こし、民間活力も活用した居住の場の確保、企業と連携した人材流動・還流のルートづくりを考えていきたい。
- ・ 緑の雇用事業によってUIターン者が増え、地域の担い手になっている。
- ・ 就農支援センターなどの体験施設を造っている。受入体制の整備が人の誘致・移動の重要な課題。
- ・ 人材誘致は農業関係などで個別にやってきたが、現在は分野横断プロジェクトとして進めている。二地域居住のためのシンポジウムの開催、ウェブでの情報提供、問い合わせ窓口のワンストップ化など。
- ・ 単に田舎に来てほしいというだけでは将来、医療費の問題がネックになる。地域づくりをしっかりすること、長期間継続することが重要。
- ・ 都会ではアレルギーがあることから、花粉症リトリートツアーを実施した結果、定住者もあらわれている。都会とは異なる、北海道の役割、特色を切り口にした都市との交流を図っていきたい。
- ・ 島根大学やNPOと共同して、空き家を活用する取組を進めている。
- ・ 都市の中で二地域居住などの移行を発掘する
- ・ 金沢には伝統文化、伝統芸能があることから、例えばお茶の稽古、能の稽古に通うなど、他とは違う形での二地域居住を考えている。

(速報のため、事後修正の可能性があります。)